

NEC

Express5800

タワー型無停電電源装置(UPS)：N8180-45A/46A/48/50/57B

スタートアップガイド

本装置を取り扱う前に、別添付の「使用上のご注意」を必ずお読みください。安全に関する大切な注意事項が記載されています。

箱を開けてから本製品が使えるようになるまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

各 Step の詳細に関しては別添付の取扱説明書 (CD-ROM) を参照願います。

Step 1 梱包内容の確認

装置を設置する前にまず、以下のものが揃っているかを確認してください。万一不足しているものがありましたら、販売店へご連絡ください。

- ① 無停電電源装置(本体(電源コード一体型))
- ② CD-ROM「取扱説明書」
- ③ 保証書

※ N8180-57B はソフトバンドル製品のため、他にソフト用 CD-ROM とケーブルが追加されます。

Step 2 設置場所の確認

- 本装置の周囲に 30cm 程度のスペースがとれる場所に設置してください。
- 本装置の動作時に室内温度 10℃～35℃、湿度 45％～70％の範囲が保てる場所に設置してください。お客様の作業環境を考慮し、できる限り室内温度 17℃～28℃の範囲が保てる場所でのご使用をお勧めします。加湿器をご使用の場合、超音波式以外のものをご使用ください。
- 本装置は水平で丈夫な床の上に設置してください。
- 直射日光に当たる場所には設置しないでください。
- UPS の入力電源コードの形状にあった商用電源コンセントを用意してください。

入力電源コードの形状：

N8180-45A/46A/50/57B：
NEMA 5-15P



N8180-48：
NEMA L5-30P

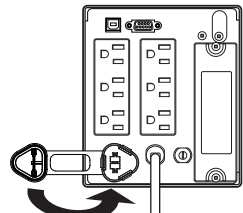


Step 3 バッテリ/アクセサリの接続

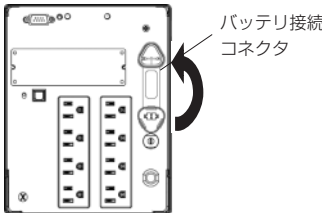
バッテリーの接続

N8180-45A/46A/50/57B の場合：

UPS 背面のバッテリー接続端子を接続してください。



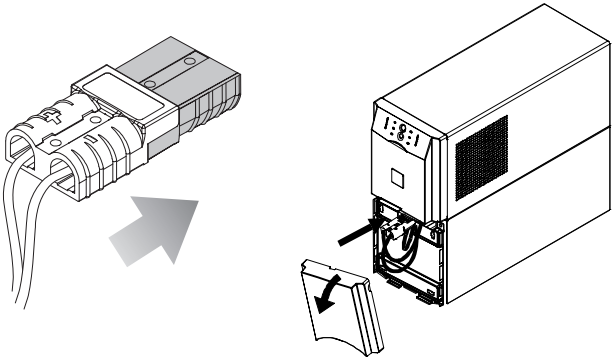
バッテリーコネクタ



N8180-48 の場合：

前面下部のベゼルカバーを開け、バッテリープラグを接続してください。

注意：UPS の移設、譲渡時は、UPS の運転を停止後、本装置の電源コードを商用電源コンセントから取り外し、バッテリー接続端子を外してください。



アクセサリの接続：

UPS アクセサリをご使用の場合、UPS 背面の SmartSlot のカバーを外し、UPS アクセサリを挿入、接続します。

注意：UPS アクセサリの接続は、必ず UPS の運転を停止し、本装置の電源コードを商用電源コンセントから取り外した状態で実施してください。

Step 4 商用電源への接続

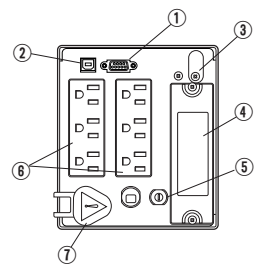
1. 本装置の電源コードを商用電源コンセントに差し込みます。
2. N8180-48 の場合：
UPS 背面の入力ブレーカを上げて、On にしてください。
3. 使用前にバッテリーを 6 時間充電してください。本装置は、商用電源に接続されている間は常にバッテリーを充電しています。

注意：電源を接続した時に、ブザー音や一部 LED の点滅等が発生する場合がありますが、故障ではありません。LED 点灯や点滅が続く場合は、AC 電源を切断して、OFF ボタンを数秒押下してリセットしてください。

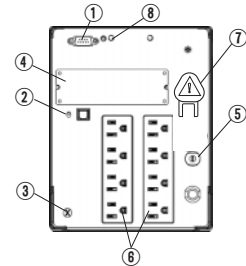
Step 5 コンピュータ機器の接続

コンピュータ機器の電源コードを本装置のコンセントに接続してください。

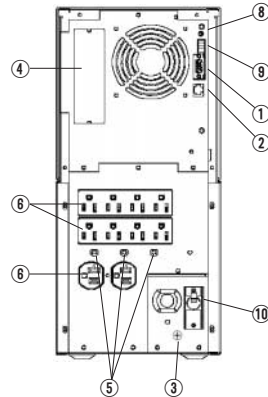
N8180-50/57B



N8180-45A/46A



N8180-48

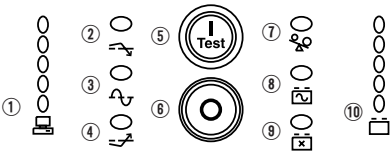


- ① コンピュータインターフェースポート (COM)
- ② コンピュータインターフェースポート (USB) ※使用不可
- ③ TVSSGND ネジ
- ④ SmartSlot
- ⑤ 過負荷保護リセットボタン
- ⑥ 出力コンセント
- ⑦ バッテリー接続コネクタ
- ⑧ 感度ボタン、感度 LED
- ⑨ EPO (緊急電源停止) ポート ※使用不可
- ⑩ 入力ブレーカ

※各部の詳細に関しては、取扱説明書をご覧ください。

Step 6 電源を ON にする

本装置正面パネルにある ON ボタンを押してください。オンライン LED (緑) が点滅後、セルフテストが実行されバッテリー使用中 LED (オレンジ) が点灯します。セルフテスト終了後、オンライン LED が点灯します。



- ① 負荷モニタ
- ② AVR Trim LED
- ③ オンライン LED
- ④ AVR Boost LED
- ⑤ ON/TEST ボタン
- ⑥ OFF ボタン
- ⑦ 過負荷 LED
- ⑧ バッテリー使用中 LED
- ⑨ バッテリー交換 LED
- ⑩ バッテリー残量/商用電源電圧モニタ

※各部の詳細に関しては、取扱説明書をご覧ください。

故障かな？と思ったときは

UPS がオンにならない場合

- ON ボタンを押していない。
- UPS が商用電源に接続されていない。
- UPS の過負荷スイッチがトリップしている。
- 商用電源電圧が非常に低いか、存在しない。
- バッテリーまたはバッテリー接続端子が正しく接続されていない。

ブザー音や一部 LED の点滅等が発生する

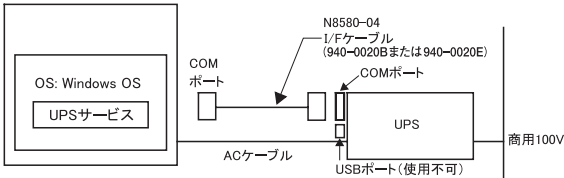
- 初めて電源を ON にした時に、ブザー音や一部 LED の点滅等が発生する場合がありますが、故障ではありません。LED の点滅が続く場合は、入力電源コードを商用電源からはずし、OFF ボタンを数秒間押して UPS をリセットしてください。その後、Step4 からやり直してください。現象が再発する場合には、取扱説明書をご確認ください。

バッテリー交換 LED が点灯し、警報音が断続的に鳴っている。

- バッテリーが寿命に達している可能性があります。バッテリーを交換してください (保守員以外は、バッテリーの交換作業は行わないでください)。
- UPS が商用電源に接続されていない。

Step 7 インターフェースケーブルの接続

OS, ESMPro/UPSManager または PowerChute Business Edition に合わせたインターフェースケーブルをインターフェースポートに接続してください。「Step5 コンピュータ機器の接続」を参照してください。
ESMPro/UPSManager：ソフトに添付のケーブル
PowerChute Business Edition：ソフトに添付のケーブル
OS 標準 UPS サービス：N8580-04
ESMPro/AC Enterprise：LAN ケーブル



Step 8 ソフトウェア設定

UPS による停電時のシャットダウン制御や計画運転制御を行うために、各 UPS 管理ソフトの設定が必要です。

インターフェースケーブルで UPS を接続して OS 標準サービスで制御する場合と UPS 制御の専用ソフトを使用する場合では接続するケーブルが異なります。インターフェースケーブルやネットワークで UPS を接続して管理ソフトを使用する場合の各設定手順を紹介いたします。

OS 標準の UPS サービスを使用する場合

停電時のサーバシャットダウン制御のみ対応可能で自動リブートできません。OS (Windows、Linux 等) で設定方法が異なります。詳細は本装置の取り扱い説明書及び、各 OS のマニュアルを参照してください。

Windows OS の例を提示します。

※ Windows Vista/2008 では本機能は未対応です。

1. UPS とサーバを N8580-04 (インターフェースケーブル) で接続していることを確認します。
2. システムを立ち上げて、「スタート」→「設定(S)」→「コントロールパネル(C)」→「電源オプション」で「UPS」のタブを選択すると、以下のような UPS ダイアログボックスが表示されます。



3. 詳細の欄の「選択 (S)」ボタンをクリックすると「UPS の選択」ダイアログボックスが表示されるので、「ポート (P)」のプルダウンメニューから UPS を接続した COM ポートを選択してください。

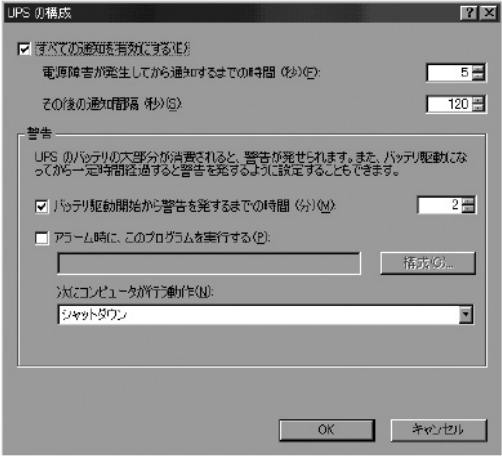


UPS が接続されている COM ポートを選択

4. 次に「製造元の選択 (S)」プルダウンメニューから「American Power Conversion」を選択すると「モデルの選択 (M)」にUPS の機種が表示されますので、「Back-UPS」を選択し、「完了」ボタンをクリックしてください。
- 以下の電源プロパティの表示に戻り、「製造元」が「American Power Conversion」、「モデル」が「Back-UPS」であることを確認したら、「構成 (C)」ボタンをクリックして下さい。



5. 「UPS の構成」ダイアログボックスが表示されるので、以下の通り設定を行ってください。



- ☒ すべての通知を有効にする
- 電源障害が発生してから通知するまでの時間 (秒) : 5
- その後の通知間隔 (秒) : 120

警告

- ☒ バッテリー駆動開始から警告を発するまでの時間 (分) : 5
- ☐ アラーム時に、このプログラムを実行する
- 次にコンピュータが行う動作 : シャットダウン

6. 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。状態の欄の「現在の電源」が「AC 電源」になっていることを確認してください。



UPS 管理ソフト (PCBE : PowerChute Business Edition) の場合

OS (Windows、Linux 等) で設定方法がこととなります。また、OS の Rev や適用必要な Service Pack の確認が必要です。また、PCBE は以下の 3 つのコンポーネントから構成され、UPS の管理方法でセットアップの方法がこととなります。

- ① PowerChute Business Edition エージェント
- ② PowerChute Business Edition サーバ
- ③ PowerChute Business Edition コンソール

セットアップの際にはかならず PCBE のインストールガイド及び本装置の取り扱い説明書を参照してください。

ESMPRO/UPSManager のご紹介

ESMPRO/UPSManager は主として下記機能を提供し、UPS 制御ソフトウェア PowerChute Business Edition のみを単体で使用する運用に比べ、優れた運用操作性を実現します。

- UPS 状態監視 (配下の UPS の状態を一定時間ごとに監視し、マネージャ画面に表示)
- UPS 寿命管理支援 (使用開始からの日数、交換の目安を表示)
- 運用情報統計グラフ表示 (UPS の稼働状況遷移を表示し、継続的な安定稼働を支援)
- 障害情報採取機能 (UPS 運用ログ情報を、UPS 管理マネージャからボタン 1 つで採取)
- ESMPRO 連携機能 (アラート通報連携など) また Windows 環境の場合、ESMPRO/UPSManager と ESMPRO/AutomaticRunningController が連携することで、スケジュール機能の強化や、CLUSTERPRO 環境での自動運転機能のサポートが可能です。お客様システムによって必要なソフトウェアのご購入をご検討ください。

Step 9

詳細のインストール方法については、各ソフトのマニュアルを参照し実施願います。